

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019/10/4
所属学部・ 研究科・学府	人文公共学府
所属学科・専攻	言語学コース

1. 留学先について

留学先大学名	ウイスコンシン大学ミルウォーキー校							
留学先所属学部等	Department of linguistics							
留学期間	出発日	2018/8/13	入学日	2018/8/28	修了日	2019/5/19	帰国日	2019/6/3
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	その他()					
	通学時間	20分					On campus	
	通学方法	大学によるシャトルバス						
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室	(3)	人部屋	その他()			
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input checked="" type="checkbox"/> キッチン	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ	<input checked="" type="checkbox"/> バス	<input checked="" type="checkbox"/> リビング	その他()	
食事	自炊	50 %	学食	40 %	外食	10 %	その他 % ()	
保険	海外旅行保険(名称)	ISO Student Health Insurance						
	派遣先大学指定の保険(名称)	UWM Health Insurance					<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入	
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)							
	成田 ⇄		シカゴ(飛行機)			⇄ ウイスコンシン(電車)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	214万 円							
出どころ								
自費	<input checked="" type="checkbox"/>	貯金	114万 円	アルバイト	円	その他	円	
援助	<input checked="" type="checkbox"/>	両親	100万 円	家族・親戚	円	その他	円	
奨学金		JASSO	円	その他名称()			円	
その他		千葉大学助成金	円	その他()			円	

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/>	現金	100,000 円	その他 ()	円
留学中	<input checked="" type="checkbox"/>	海外送金	<input type="checkbox"/> キャッシング	その他 ()	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	カード
住居にかかった費用	カード
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	米ドル	2,000	200,000	円
海外旅行保険	米ドル	1,000	100,000	円
OSSMA	米ドル	100	10,000	円
査証・在留許可証	米ドル	100	10,000	円
住居	米ドル	10,000	1,000,000	円
食費	米ドル	5,000	500,000	円
通学に要する交通費	米ドル	0	0	円
教科書、教材費	米ドル	200	20,000	円
その他大学に支払った経費	米ドル	3,000	300,000	円
光熱費	米ドル	0	0	円
その他 ()	米ドル			円
その他 ()	米ドル			円
その他 ()	米ドル			円
その他 ()	米ドル			円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	無	その他
1 LINGUIS 464 Introduction to Syntax	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 LINGUIS 566 Advanced Semantics	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 LINGUIS 450 General Phonetics and Practicum	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 LINGUIS 708 Proseminar in Linguistics	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

5	LINGUIS 999 Independent Reading for Dctrl Students	正規	3		有	✓	無
6	LINGUIS 466 Semantics	正規	3		有	✓	無
7	LINGUIS 564 Advanced Syntax	正規	3		有	✓	無
8					有		無
9					有		無
10					有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

留学当初の目的通り専門科目である言語学の授業を履修しました。その際、アメリカの一般的な言語学専攻の大学院一年生と同じスケジュールになるように意識しました。履修登録の方法についてはオンラインで専用のウェブサイトを通して行います。登録時期は学期開始の数か月前からです。学期が始まる時期が違うという事を除けば千葉大学と大きく変わるところはなかったように思います。

3-2. 授業内容、方法に関して

私が受講した範囲では学部生向けの授業、大学院生向けの授業で異なりました。学部生向けの授業では講義形式、大学院生向けの授業では学生の発表などを伴うセミナー形式でした。また、これは授業形式というよりは文化の違いだと思いますが学生が授業に積極的に参加している印象を受けました。質問・反論・サポートなど様々な形で学生が授業に参加します。私も日本語の母語話者として言語学の授業では意見をよく求められました。

3-3. 語学力について

留学前から専門分野は基本的に英語で学び、研究をしていたので授業に関しては大きな問題はありませんでした。語学力の問題か現地に関する知識不足のせいかは分かりませんが、日常生活ではクラスメイトや店員さんとの会話で困ることがありました。ネイティブスピーカーとの会話では困ることが多かったですが他のインターナショナルスチューデントとの会話では特に困ったことはなかったように思います。しかし、日々様々な英語に触れることで自分の英語力の向上を感じる瞬間は留学中に何度かありました。留学前と後では英語の論文を読む速さがかなり変わりました。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館は非常に使いやすく、頻繁に利用していました。寮から近いこと、部屋は完全なプライベート空間ではないことも私が図書館を好んだ理由の一部です。私が良いと思った点は、まず通常は23時まで、テスト期間は24時間空いていることです。レポートの締め切り前には徹夜をすることもあったので24時間空いているというのは助かりました。また、日本の図書館と少し違い、皆で集まって談笑したり、ディスカッションしたりする場として図書館が作られている点も良いと思いました。静かにしなければならないスペースも確保されていますが、フロア、スペースによってはホワイトボードが置いてあったりしました。また、基本的にみんな大学の近くに住んでいますので宿題を集まってやったりすることが多かったです。このような場が用意されていることは孤独な留学生にとってはありがたいです。最後に、UWMの図書館には置いていない本、論文でも系列校(UW-Madisonなど)からpdf形式で無料で取り寄せられることに感動しました。少なくとも千葉大学では送料などが掛かりますので、このシステムには助けられました。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

私の場合特に不満はなく快適でした。住居が大学から近いこと、住居から大学まで無料のシャトルバスが出ていたので通学するにあたって理想的な環境でした。

4-2. 食生活について

日本食は簡単に手に入らないのでやはり恋しくなることはありますが、慣れてしまえば、ほぼ毎日サンドイッチ、ハンバーガー、パスタなどでも平気になりました(留学前からそのような食生活をしてきた慣れがあるかもしれませんが)。実家暮らしからいきなり留学生活になると辛いかもしれません。近くにはスーパーもありますので自炊のための買い物には困りませんでした。アジア系のスーパーはバスで30分ほど行かなくてはいけません。ちなみにスーパーにはバスで行きますが、バスは無料です。UWMのカフェでは基本的にはアメリカ料理しか手に入りませんが、日本、中学、韓国、ベトナムなどアジアの料理もたまにキャンペーンのようなかたちでやっていました。Meal planに入っているとおよそ半額になりますので自炊をしないのであればMeal planに入ることをお勧めします。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

わたしはsoftbankのアメリカ放題に加入していたので日本の携帯電話をそのまま使っていました。ただ、アメリカ放題ではアメリカの電話番号が貰えないのでそれで困ることは多々ありました。困るといってもスーパーのポイントカードの登録が面倒になる程度ですが。アメリカで携帯電話を契約してトラブルになっている学生も何人か見ましたが、個人的にはアメリカで契約することをお勧めします。電話番号の件もありますが、何より良い経験になると思うので。

4-4. 服装について

機能面でいうと、留学期間中の9月から5月のミルウォーキーは基本的に東京の真冬より寒いので暖かい服は必須です。イメージとしては山登りに行くくらいの防寒をする必要があります。ファッションという観点から言えば東京ほどみんな服に気を使っていないので、特に気にする必要はないでしょう。

4-5. 健康管理について

留学だからと言って特記することはありませんが、やはり寒いのでなるべく暖かい服装、寝具を使うことは心がけていました。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

保険は使いませんでした。しかし、もしものことを考えると加入している安心感がありました。OSSMAも利用しませんでした。

4-7. 課外活動について

特になし。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

特になし。

4-9. 日本から持参してよかったもの

私の場合、必要最低限の荷物で出発し、足りなければ現地で揃えるという形をとったので特にありませんが、趣味でギターを弾くのでそれは気分転換のためにも持って行って良かったと思います。大体のものはミルウォーキーで手に入ります。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

特になし。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

アメリカの文化については他の皆さんと同じように慣れ親しんでいるので特に新しく知ったことはありませんでした。フレンドリーさなど、基本的に日本で噂に聞いていた通りだと思います。1つだけあるとすれば、アメリカ出身ではない学生がアメリカ文化になじもうとして過度にフレンドリーに振る舞うというのをしばしば見かけました。人によっては失礼と取られかねないので、いくらフレンドリーな文化と言っても私は人との距離感には日本以上に細心の注意を払っていました。「Where are you from? (どこから来たの)」と聞くにしてもそれはアメリカ出身ではない/英語が上手くないという決めつけに繋がる場合がありますので、注意していました。ちなみにアメリカ人は私以上に気を使っているように見えました。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

冬休みにアリゾナ州グランドキャニオンへ行きました。1/16-18に2泊3日で費用はすべて合わせて4万円程でした。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

サマータイムの関係で日が出ている時間が短く、また、基本的に天気が良くないので外にも出られないためほとんどの時期を少し憂鬱な気分でも過ごしました。それに加えて留学の孤独感などもありました。私の場合はまず日々の授業や課題に追われていたことで憂鬱やストレスは紛らわされていました。日々の気分転換は日本から持参したギターが主でした。また、友達が私を訪ねてアメリカまで来てくれたことも良いリフレッシュになりました。その他にも、ミルウォーキーに来たワンオクロックのライブを見に行ったり、シカゴへ出かけたりもしました。

5. その他

5-1. 留学先大学について

とても良い大学だと思いました。上述の通り、図書館や住宅環境も含め不自由することはありませんでした。立地もミルウォーキーというそこそこの都会にあることに加え、シカゴという大都市が2時間ほどの場所にあるので良いと思います。私にとって一番印象的なのは先生たちが親切だったことです。大学院生の面倒を見るというのは手がかかるので派遣留学で一年しかいない私の面倒などちゃんとは見てくれないかもしれないと心配していたのですが、授業中はもちろん、レポートの相談などをしに行った際もしっかり話し相手になってくれました。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

私の個人的な経験に基づいて話しますが、目的を明確にしながらも力を入れすぎず留学に臨むことが大切だと思います。力を入れすぎて失敗した人、目的なく留学に来て持てあます人を実際に見ました。また、留学に行くと友達を作らなくてはいけないという思いから苦勞する人を多く見ましたが無理に好きでもないパーティなどに出席する必要はないと思います。自分が出来る範囲で無理せず生活することをお勧めします。心が折れることはありますが、留学中は辛くても帰国してからやっておいて良かったと思えることもありますのでめげずに目的に食らいつくと良いと思います。

5-3. 留学を終えて

全体としてとても貴重な経験が出来たと思います。私の場合は目的が“研究のため”と明確だったこともあり、単純に知識が増えたという意味で非常に有意義な時間を過ごせました。生まれてから地元を離れたことがなかったため、環境が劇的に変わったことで辛かった時もありますが、それを経た今は人として強くなった気がしています。また、精神面でも大きく成長したと感じます。私は日本におけるマジョリティである日本人として生まれ育ったため、今思えば留学前は立場が弱い人の気持ちを本当の意味で分かっていませんでした。しかし、留学でマイノリティの立場を経験することで様々な理由で不便を強いられている人、不安を抱えている人の気持ちに寄り添えるようになりました。そこには日本に来ている留学生だけでなく、地方から上京してきて間もない人や歳を召した方、ハンディキャップを抱えた人も含まれます。簡単に言えば優しくなったということですが、これも留学の大きな効果です。他にも、英語が上手くなった、前より世界の文化に詳しくなった、恥ずかしがらずにサングラスをかけられるようになった等いろいろな留学の恩恵を感じています。留学に限った話ではないかもしれませんが、環境をガラッと変えることは辛いですがそのぶん多くの収穫があることに気づかされました。留学中は気が付かなかったことでも、帰国後に成長した/変化した自分に気付くことが多いです。これから留学でまいた種がどのように咲くのか楽しみです。最後になりましたが、今回の私の留学に関わった支援室の皆様、UWMのコーディネーターの方、母に心より感謝します。